

稲作情報

No6 「適期:中干し開始」

J A えちご中越 さんとう営農センター
TEL: 0258 (41) 2887

令和7年 5月20日

「適期中干し開始」~「全圃場で溝切り」を実践しましょう!!

5月上旬は、気温の寒暖差・日較差が大きく一部のほ場（軟弱・徒長苗）で植え傷みが発生していますが、5月中旬以降、安定した天候が続いていることから、水稻の活着・初期生育は概ね良好となっています。一方、気温の上昇とともに「ウキの発生」が多くなります。夜間落水や水の更新で「ガス抜き」してあげましょう。あわせて「適期中干し開始」に向けた準備（→茎数確認）を始めましょう!!

向こう1カ月は「気温の高い確率：70%」で平年より気温が高く、降水量は平年並〜多く、日照時間は平年並〜少ない見込みです。本格的な梅雨入り前に「中干し」を開始して「地固め」しましょう!! → **【注意】：✕ 遅すぎる中干し開始 ✕**

天候も随時確認するのじゃ!



©ワンジャ

1. 適期中干しを開始しましょう!!

(1) **中干し開始の目安** … 目標茎数（目標穂数の80%程度）を確保したら**速やかに!!**

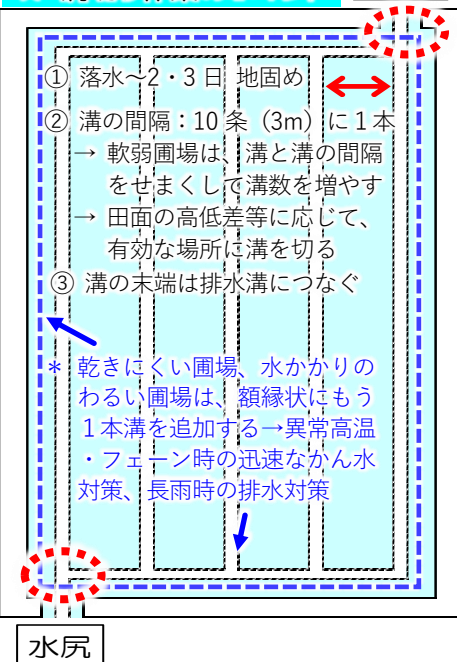
品種名	コシヒカリ		こしいぶき	ゆきん子舞	ゆきの精	新之助	にじのきらめき	五百万石	わたぼうし	ゆきみらい
栽植密度	50株	60株	60株	60株	60株	50株	60株	60株	60株	60株
目標穂数	350本/m ²	350本/m ²	400本/m ²	420本/m ²	380本/m ²	400本/m ²	320本/m ²	325本/m ²	350本/m ²	380本/m ²
開始の目安	草丈	30cm	30cm	30cm	30cm	30cm	30cm	32cm	28cm	30cm
	茎数	18本/株	15本/株	17本/株	18本/株	17本/株	21本/株	14本/株	14本/株	15本/株
	葉数	7.0葉								

◆ 生育過剰になりやすい地域・ほ場では、早め（目標穂数の70%程度）の中干しを徹底して下さい。

長雨・渇水・異常高温などの“気象変動”に備えて…
→ **全ほ場で「溝切り」を実施しましょう!!**

(2) 溝切りの方法

★ 溝切り作業のポイント



【溝切り：施工目標】

- ① 溝切りは**全ほ場で実施する**
- ② 溝の間隔は**最低でも10条(3.0m)に1本程度**
 - ◆ 溝の深さは、10cm以上を確保する
 - ◆ 各溝の末端は、必ず排水溝につなげる
- * 作溝が不十分な場合は、再度溝切りを実施する

☆ 中干しの効果

- ① 無効分げつの発生抑制による“**適正生育量の確保**”
- ② 土壌への酸素供給による“**根の健全化**”
- ③ 下位節間の伸長抑制による“**倒伏軽減**”
- ④ コンバイン収穫作業が可能な“**地耐力の確保**”

☆ 溝切りの効果

- ① 中干し効果の安定
- ② 中干し以降の水管理（異常高温・強風フェーン、大雨・長雨等の緊急時の給排水）が容易となる

SDGs13「気候変動やその影響を減らすための「具体的な対策」として、今すぐ行動しよう!!」

(3) **中干し終了の目安** … “小ヒビが入り、軽く足跡がつく程度”になったら終了します!!

中干し終了後は、◆根の健全化、◆うわ根の発生促進、◆地耐力の維持に努める必要があります。
中干しは“小ヒビが入り、軽く足跡がつく程度”になったら終了することを基本として、地耐力が確保できるよう、ほ場ごとに長さ・強さを調節しましょう。（遅くとも出穂1ヵ月前（幼穂形成期）までには終了します。）



強すぎる中干し(大ヒビ)厳禁!

- ① 根の断裂等により、幼穂形成期から急激に“葉色低下”します!
- ② “高温障害”を受けやすくなります!
- ③ “除草効果が急激に低下”します!

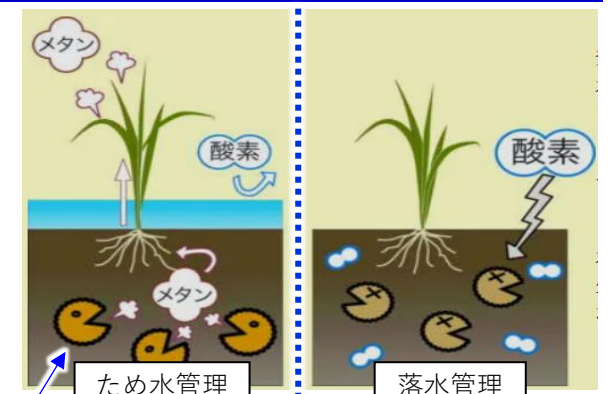
(4) **「中干し:7日間延長」で温室効果ガスを削減!!**

SDGs13 気候変動やその影響を減らすための「具体的な対策」として、今すぐ行動しよう!!

地域全体で「**水田中干しを1週間延長**」して、**温室効果ガスの発生を抑制**します!!

水田の土壌中には、メタンを作る微生物（メタン生成菌）が住んでいます。この生成菌は酸素が少ない条件を好み、水稻を育てるために水田に水を張る（湛水する）ことで土壌中の酸素が少なくなり、生成菌の活動が活性化し、多量のメタンが生成され大気中に放出されてしまいます。

一方、中干し（浅水〜落水管理）を徹底・延長することで土壌中には、しっかり酸素が供給されます。これにより生成菌の活動が衰え、弱い中干しや常時湛水した圃場よりも長く中干ししたほ場ではメタンの発生量が約70%削減されます。



【図：「1週間×延長中干し」のイメージ】

月日	6/5	6/15	6/25	7/5	7/15	7/25
生育ステージ	有効分げつ期 → 最高分げつ期			幼穂形成期 ⇒⇒⇒⇒ 出穂期		
慣行中干し	浅水	中干し		間断かん水 → 飽水管理 →→→		
1週間×延長中干し	浅水	1週間×延長中干し		間断かん水 → 飽水管理 →→→		
	中干し開始	中干し期間		必ず「小ヒビで終了」します!!		
		気象・圃場の条件によって長さ（期間）・強さを調整します!!				
		【遅くとも出穂1ヵ月前までに終了】				
		*注① 晴天が続くときは適宜入水して「大ヒビに注意」!!				
*注② 入水した水は必ず1日以内に落水「長期湛水はダメ」!!						

これまで取り組んできた中干しを「**7日間延長するイメージ**」で幼穂形成期前まで“**延長中干し**”に取り組みましょう!!

裏面を参照してください!!

2. 病虫害・本田雑草防除対策

いもち病を防止するのジャ！

田んぼに補植苗は残っていませんか？ →→→ その補植苗!! →いもち病の発生源になります!!

(1) 葉いもち対策

- ① 放置されている補植苗は、いもち病の発生源となります。→ 補植苗を速やかに撤去しましょう。
- ② いもち病の発生しやすいほ場（常発地域・転作大豆あと）や品種（わたぼうし・新之助など）で育苗箱処理剤（ブーンパディート箱粒剤など）による葉いもち防除を実施していない場合は・・・6月10日頃（中干し開始前）までに予防剤による葉いもち防除を徹底しましょう！

資材名	10a使用量	使用時期	備考
ブーン粒剤	1kg	いもちの初発前まで（収穫30日前まで）	湛水散布（3～5cm）

- ③ 茎数過剰は、葉いもちの発生を助長します。適期中干しにより過繁茂を防止しましょう。

(2) 本田雑草防除対策

- ① “小ヒビ中干し”と“中干し後の飽水管理”により、田面が潤っている状態（土壌水分）を維持し、除草効果の急激な低下を防ぎましょう。⇒ 後発雑草対策
- ② 本田内雑草（ヒエ・ホタルイ等）の発生は、“栄養競合による玄米品質の低下”や“斑点米発生リスクの増大”を招きます。雑草の発生状況や種類に応じて中後期除草剤による雑草防除を徹底して下さい。

●【全品種共通で使用できる中後期除草剤】

種類	資材名		10a使用量	使用時期（移植水稻）	備考
イネ科	クリンチャー	1キロ粒剤	1kg	移植後 7日～ノビエ4葉期（但し収穫30日前まで）	●● 湛水散布
			1.5kg	移植後 25日～ノビエ5葉期（但し収穫30日前まで）	
		ジャンボ	20個（1.0kg）	移植後 7日～ノビエ4葉期（但し収穫30日前まで）	
			30個（1.5kg）	移植後 25日～ノビエ5葉期（但し収穫30日前まで）	
		EW	100ml	移植後 20日～ノビエ6葉期（但し収穫30日前まで）	▼▼ 落水散布
広葉	クリンチャーバス ME 液剤		1000ml	移植後 15日～ノビエ5葉期（但し収穫50日前まで）	
	バサグラン	粒剤	3～4kg	移植後 15日～収穫45日前まで	
		液剤	500～700ml	移植後 15日～収穫45日前まで	

※ 雑草の種類や葉齢により使用時期が異なりますので、登録内容を確認してから使用して下さい。
5割減栽培でクリンチャーバス ME 液剤を使用した場合は、クリンチャー及びバサグランの単剤を使用（併用）できませんので、注意して下さい。

◆【特別栽培米（コシヒカリ BL・契約栽培こがねもち）以外の品種に使用可能な中・後期除草剤】

資材名	剤型規格	使用時期（移植水稻）
モグトン	粒剤・ジャンボ	アオミドロ・藻類・表層はく離の発生時（但し 収穫45日前まで） 湛水散布
セカンドショット	Sジャンボ MX	移植後 14日～ノビエ 3.5 葉期（但し 収穫45日前まで） *省力中期除草剤
ツイゲキ	1キロ粒剤・豆つぶ	移植後 14日～ノビエ 4 葉期（但し 収穫60日前まで） *ノビエ+ホタルイ 20cmほか
ワイドショット	1キロ粒剤	移植後 15日～ノビエ 4 葉期（但し 収穫45日前まで） *ノビエ+ホタルイ 4葉期ほか
ロイアント	乳剤・200ml	移植後 20日～ノビエ 5 葉期（但し 収穫45日前まで） *ノビエ+クサネム 70cmほか

～～ 営農情報のお問い合わせは、お気軽に最寄りの営農センターへ ～～

次回稲作情報：6月中旬「生育速報、中干し以降の水管理、中間追肥、病虫害対策」（予定）

(3) 斑点米カメムシ対策

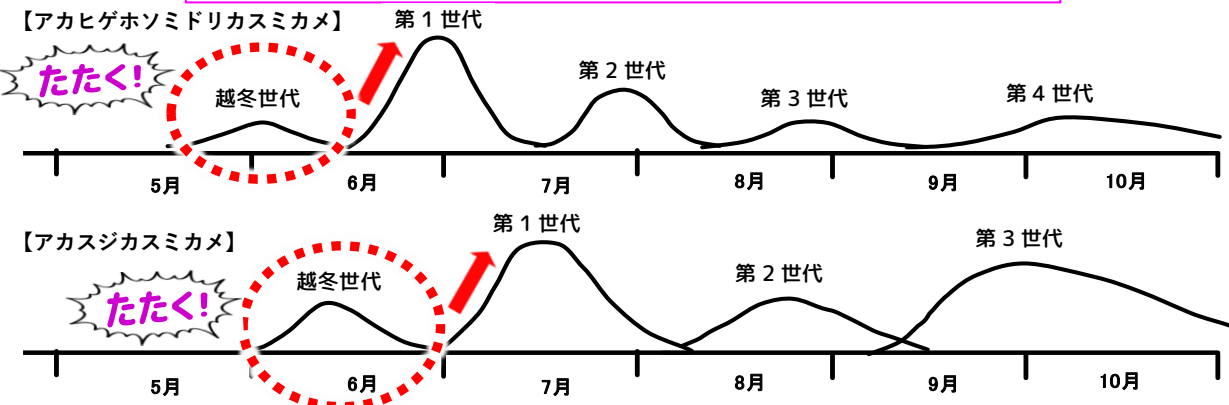
新潟県内の主要なカメムシ類のうち、カスミカメムシ 2 種（①アカスジカスミカメ・②アカヒゲミドリカスミカメ）は、2013 年の急増以降「高止まり」の状態で推移しています。

また、令和6年のさんとう管内「斑点米による格落数量」は 1,068 俵/60kg で、前年・平年を大きく上回る結果となり、高温障害に伴う白未熟により格落ちした玄米製品にも相当数の斑点米被害粒の混入が確認されています。特に昨年は主要なカスミカメムシ類とホソハリカメムシの他、寺泊・和島地区の一部中山間地でクモヘリカメムシが突出して発生量が多くなり、令和7年におけるカメムシ類の発生動向にも注意が必要です。

写真：斑点米被害を発生させる主要カメムシ類（体長順）

①アカスジカスミカメ	②アカヒゲミドリカスミカメ	③オオゲジカメムシ	④ホソハリカメムシ	⑤クモヘリカメムシ
				
成虫体長 4.5～5.5 mm	成虫体長 4.5～6.4 mm	成虫体長 6～7 mm	成虫体長 9～11 mm	成虫体長 16 mm位

図：アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫・アカスジカスミカメ成虫の発生消長



近年の温暖化～高温傾向によりカメムシ類の活動・増殖が活性化していることに加え、昨冬の暖冬によりカメムシ類が越冬しやすい条件となっていることから・・・
今春の越冬世代幼虫も平年以上に多くなるものと推察されます。

対策	“ただちに除草” 指名手配:「雑草」	
	メシバ	ナギナタガヤ
		
	越冬・孵化した“越冬世代幼虫”は、農道・畦畔等のイネ科雑草を寄主・エサ場として増殖します!! カメムシ類の密度を低減～被害を軽減させるために、地域全体で連携して・・・ 春先からイネ科雑草を出穂させない雑草管理を徹底しましょう!!	